

## めかり公園活性化プロジェクト事業について

### 1 和布刈エリアの振興について

数々の歴史の舞台となった関門海峡の風景や、関門トンネル人道等、九州最北端のまちとしての様々な観光資源がある和布刈地区は、レトロ地区とともに、『北九州市観光振興プラン』で重点エリアに位置付けており、現在、「新たな魅力の発掘や観光資源の磨き上げ」「快適な滞在環境の整備」等の取り組みを進めているところである。

### 2 和布刈エリアにおけるこれまでの主な取り組み

#### (1)門司港レトロ観光列車「潮風号」の運行（平成 21 年4月）

レトロ地区と和布刈地区の移動を楽しく、スムーズなものにするとともに、関門エリアの大きな周回ルート創出を目的に、観光列車を運行。



#### (2)客車(オハフ列車)の休憩施設としての供用開始(平成 22 年3月)

観光列車の運行開始にあわせ、勝山公園(小倉北区)に設置されていた客車を和布刈公園に移設し、改修を実施(その際、座席の半分は撤去)。

その後、休憩施設として供用開始。

◇位置づけ 公園施設(指定文化財、登録文化財ではない)



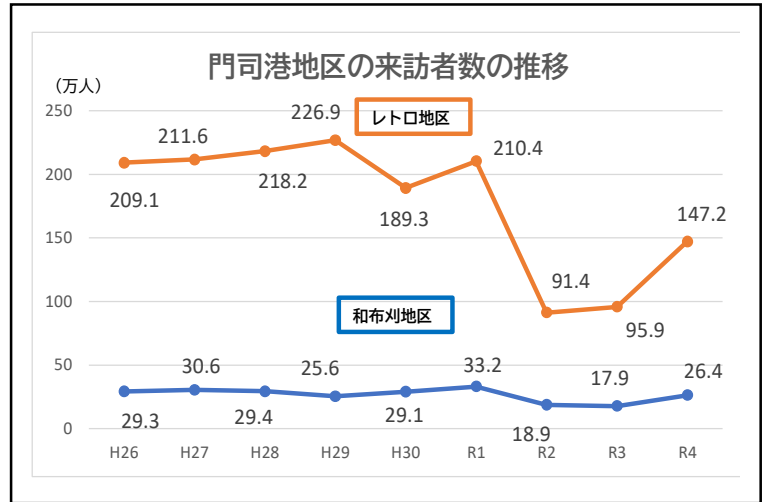
#### (3)にぎわい創出の取り組み

上記の取り組みに加え、和布刈エリアに多くの人が集まることを目的に、夜景とジャズを楽しむイベント、ラグジュアリーなピクニック気分を楽しむイベント等、様々なイベントを実施し、また、民間事業者による飲食店の営業等、官民が連携してエリアのにぎわい創出に取り組んできた。



### 3 和布刈地区の来訪者数の推移

こうした取り組みの一方、レトロ地区との来訪者数の開きは埋まらず、近年は、新型コロナの流行や施設の老朽化に伴う飲食店の閉店や休憩施設の閉鎖もあり、来訪者数の増加に向けた新たな活性化策が必要。



### 4 「オハフ列車」を活用した事業について

和布刈公園への移設後、車両を休憩施設として活用していたが、新型コロナの流行や車両の老朽化等の影響で令和3年に休憩施設は閉鎖となっていた。そのような状況の中、令和4年度に、民間事業者(地元の飲食事業者等)から、「オハフ列車を活用して和布刈地区のにぎわいづくりに取り組みたい」との提案があった。協議を重ねる中で、

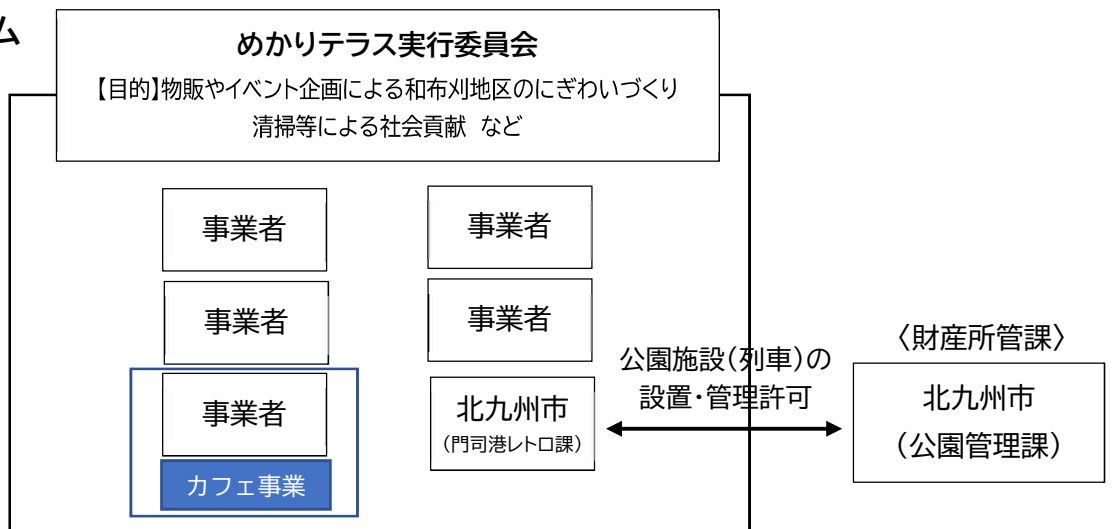
- ・和布刈地区への回遊性向上や、地区全体での滞在時間の延長等につながる
- ・車両の活用により、継続的な維持管理が可能となる

から、民間活力を活かせる実行委員会を立ち上げ、カフェ事業の実施を決定した。

#### (1) 事業のこれまでの経過

- 令和4年度 5月 民間事業者(地元の飲食事業者等)から和布刈地区のにぎわいづくりの提案  
市(門司港レトロ課・公園管理課)を交え継続的に協議を実施
- 令和5年度 11月 めかりテラス実行委員会が発足
- 令和6年度 5月 カフェ事業を開始

#### (2) 事業スキーム



◇カフェ事業:

実行委員会の一員である民間事業者が運営。改装や設備等の費用は自ら負担(民間投資)。

## 「オハフ列車」に関する最近の動きについて

### 1 改修工事に伴う動き

車両をカフェとして活用するため、実行委員会での議論を経て、実行委員会メンバーの民間事業者が、内部の改装を実施。

(その際、実行委員会メンバーである門司港レトロ課と財産所管課である公園管理課の連携の下、都市公園法に基づいて公園施設(列車)の設置・管理を許可。)

その後、取り外された既設座席の一部が、実行委員会の中で市が明示した方針に反しネットオークションに出品され(すぐに回収)、また別ルートで2脚が売却(未回収)されたことが判明。

#### 【原因】

実行委員会メンバーの民間事業者が、座席等の撤去作業を業者に依頼。その際、市から適切な廃棄を指導されていたにもかかわらず、依頼された業者は誤った(再利用などをして構わない)認識を持ち、座席の転売行為に及んだもの。(聞き取りによる)

### 2 今後の対応方針

(1)オークションと別ルートで売却された2脚について、返還を要請。

(2)実行委員会内部の情報共有及び情報管理の徹底を図るための具体策を検討。

例:様式の作成など